

**平成29年度大学教育再生戦略推進費
「基礎研究医養成活性化プログラム」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	名古屋大学 (名古屋市立大学、岐阜大学、三重大学、浜松医科大学、 愛知医科大学) 計6大学
事業名 (全角20字以内)	人体を統合的に理解できる基礎研究医の養成

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉</p> <p>近年、臨床志向、専門医志向の高まりを受け、基礎医学研究を志向する医師が減少し問題となっている。これまでに東海地区の医学部を有する6大学は一貫して基礎医学研究医の養成に取り組んでおり、6大学で東海地区コンソーシアムを結成し東海地区学生リトリートを行うことにより、学部生や教員の交流や研究志向をもつ学部生のモチベーション向上を図ってきた。また、名古屋大学における学生研究会の活動など、各大学にて学部生に対するプログラムを立ち上げ学部生の研究室配属や研究発表会を開催することで、学部生の研究志向を涵養しリサーチマインドの育成に努めてきた。<u>これらの取り組みの結果、研究志向の学部生は徐々に増加してはいるが、今後は大学院において基礎研究医となるためのより体系的・組織的な指導を行う必要がある。</u></p> <p>特に、病理学や法医学分野の研究医は人体の機能と病態を統合的に理解できる能力が必要であり、高度化細分化した現在の医学研究に必須の人材である。<u>しかしながら病理学や法医学分野における医師の不足により、研究や教育に必要なマンパワーを確保することが困難となっている。</u></p> <p>これらの問題を解決するために、本事業では東海地区の6大学が連携して基礎研究医および病理学・法医学研究医を養成するための体系的・組織的大学院プログラムを開発し、基礎研究志向の大学院生に対して魅力的なカリキュラムを提供するとともに、病理学や法医学等の分野における有能な基礎研究医の着実な確保を図る。</p> <p>〈事業の概要〉(400字以内厳守)</p> <p>東海地区の医学部を有する6大学が連携し、ヒトの病態を俯瞰できる基礎研究医および研究マインドを持った病理学・法医学研究医を養成する。本プログラムは①コア能力獲得(基礎的な病理診断・法医鑑定技術の習得)、②6大学の特長を生かした専門能力の獲得(高度専門的な病理診断・法医鑑定技術・研究能力の理解)、③研究マインド涵養(プログラムが指定するカンファレンス、研究会等の参加・発表)、④合同研究発表会(D4学生による研究成果の発表)の4つのカリキュラムで構成される。それぞれにポイントを設定し、4年間で獲得したポイントと、合同研究発表会での発表内容を評価し修了証を発行する。ポイントの半分は自大学以外で獲得する必要があり、これにより1大学では教育できない多様かつ広汎な大学院教育が可能になる。さらに学生・教員の交流や情報交換を促し、連携大学全体の研究・教育をボトムアップする。</p>
--

②大学・研究科等の教育理念・使命(ミッション)・人材養成目的との関係

<p>それぞれの参画大学は優れた医学研究者と医療人材の育成を教育理念としている。基礎研究医の不足および病理学・法医学分野の研究医の不足は重大な問題であり、「ヒトの病態を俯瞰できる基礎研究医」および「研究マインドを持った病理学・法医学研究医」の養成を目的とする教育プログラムの構築と実施、及びその普及は参画大学それぞれの教育理念に沿うものである。</p>
--

③新規性・独創性

<p><新規性> 名古屋大学では平成24年度より学生研究会を立ち上げ、研究志望の学部生を増やす取組を行ってきた。その結果、研究志向の学部生は徐々に増加し、平成28年の時点で、<u>109名の学部生が研究室訪問を行い、50名の学部生が研究を行っている</u>。平成27年には<u>学生を著者とした論文が25報掲載され、学生による学会発表も13件行われている</u>。</p> <p>また、本事業に参加する6大学は一貫して基礎医学研究医の養成に取り組んでおり、6大学で東海地区コンソーシアムを結成し東海地区学生リトリートを行うことにより、学部生や教員の交流や研究志向をもつ学部生のモチベーション向上を図ってきた。<u>平成25年には49名が、平成26年には87名の学生が東海地区学生リトリートに参加し、研究発表を行っている</u>。</p> <p>これらの取組の結果、名古屋大学大学院医学系研究科の基礎系大学院へ進学する医学部卒業者は徐々に増加しており、平成28年には9名の医学部卒業者が基礎系大学院へ進学し、うち2名は卒業後2年以内に大学院へ進学するMD PhDコースとして入学している。</p> <p>これらの成果を生かすために、従来の学部生に対する取組に加え、今後は大学院において基礎研究医となるためのより体系的・組織的な指導を行う必要がある。</p> <p><独創性> ○連携による研究・教育の活性化：東海地区全体で連携して体系的・特長的指導を行い、学生・教員の交流を加速し、地区全体の研究・教育をボトムアップする。研究交流・協力を促進することで、共同研究を加速する。 ○多彩で魅力的なコース：連携大学が協力し、個々の学生が目指す目標を全大学でサポートする。このため各大学がその特長を生かした多彩で魅力的なコースを提供する。また、各連携大学で行われる講義・実習・セミナーを利用して、高度専門的な病理診断・法医鑑定能力や、専門分野を深化させる研究能力を育成する。 ○研究マインドの涵養：参加者は、プログラムが主催する合同研究発表会や、プログラムが指定するカンファレンス、勉強会、リトリートに参加・発表し、他大学や他分野の研究者と交流を行い、切磋琢磨することにより優れた研究マインドや、集学的な基礎研究を行う素養を身につける。</p>

④達成目標・評価指標

<p><実施する教育プログラムの数> (詳細は様式2, ポンチ絵を参照) 1つ (名古屋大、名古屋市大、岐阜大、三重大、浜松医科大、愛知医科大が連携して実施)</p> <p><実施する教育プログラムの名称、修業年限> 東海地区合同病理学・法医学研究医養成プログラム 4年</p> <p><実施する教育プログラムの立ち上げ時期> 平成29年10月 プログラムの募集開始 平成30年 4月 プログラム開始</p> <p><目標新規受入人数(括弧内は目標修了者数)></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名古屋大</td> <td>0(0)</td> <td>3(0)</td> <td>3(0)</td> <td>3(0)</td> <td>3(3)</td> <td>12(3)</td> </tr> <tr> <td>名古屋市立大</td> <td>0(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(1)</td> <td>4(1)</td> </tr> <tr> <td>岐阜大</td> <td>0(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(1)</td> <td>4(1)</td> </tr> <tr> <td>三重大</td> <td>0(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(1)</td> <td>4(1)</td> </tr> <tr> <td>浜松医科大</td> <td>0(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(1)</td> <td>4(1)</td> </tr> <tr> <td>愛知医科大</td> <td>0(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(0)</td> <td>1(1)</td> <td>4(1)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0(0)</td> <td>8(0)</td> <td>8(0)</td> <td>8(0)</td> <td>8(8)</td> <td>32(8)</td> </tr> </tbody> </table> <p><本事業に関わる発表会やセミナーの目標開催数(括弧内は目標参加学生数)></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合同研究発表会 (研究発表者不在の場合は合同セミナーを開催する)</td> <td>0(0)</td> <td>1(8)</td> <td>1(16)</td> <td>1(24)</td> <td>1(32)</td> <td>4(80)</td> </tr> <tr> <td>セミナー</td> <td>0(0)</td> <td>10(40)</td> <td>10(80)</td> <td>10(120)</td> <td>10(160)</td> <td>40(400)</td> </tr> </tbody> </table> <p><本事業に関わるカンファレンスや研究会の目標参加者数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名古屋グローバルリトリート</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>病理学会カンファレンス</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>法医病理研究会</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>法医中毒研究会</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	H29	H30	H31	H32	H33	計	名古屋大	0(0)	3(0)	3(0)	3(0)	3(3)	12(3)	名古屋市立大	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(1)	4(1)	岐阜大	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(1)	4(1)	三重大	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(1)	4(1)	浜松医科大	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(1)	4(1)	愛知医科大	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(1)	4(1)	計	0(0)	8(0)	8(0)	8(0)	8(8)	32(8)		H29	H30	H31	H32	H33	計	合同研究発表会 (研究発表者不在の場合は合同セミナーを開催する)	0(0)	1(8)	1(16)	1(24)	1(32)	4(80)	セミナー	0(0)	10(40)	10(80)	10(120)	10(160)	40(400)		H29	H30	H31	H32	H33	計	名古屋グローバルリトリート	0	5	10	15	20	50	病理学会カンファレンス	0	5	10	15	20	50	法医病理研究会	0	1	2	3	4	10	法医中毒研究会	0	1	2	3	4	10
対象者	H29	H30	H31	H32	H33	計																																																																																																										
名古屋大	0(0)	3(0)	3(0)	3(0)	3(3)	12(3)																																																																																																										
名古屋市立大	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(1)	4(1)																																																																																																										
岐阜大	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(1)	4(1)																																																																																																										
三重大	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(1)	4(1)																																																																																																										
浜松医科大	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(1)	4(1)																																																																																																										
愛知医科大	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(1)	4(1)																																																																																																										
計	0(0)	8(0)	8(0)	8(0)	8(8)	32(8)																																																																																																										
	H29	H30	H31	H32	H33	計																																																																																																										
合同研究発表会 (研究発表者不在の場合は合同セミナーを開催する)	0(0)	1(8)	1(16)	1(24)	1(32)	4(80)																																																																																																										
セミナー	0(0)	10(40)	10(80)	10(120)	10(160)	40(400)																																																																																																										
	H29	H30	H31	H32	H33	計																																																																																																										
名古屋グローバルリトリート	0	5	10	15	20	50																																																																																																										
病理学会カンファレンス	0	5	10	15	20	50																																																																																																										
法医病理研究会	0	1	2	3	4	10																																																																																																										
法医中毒研究会	0	1	2	3	4	10																																																																																																										

⑤キャリアパスの構築

○本プログラムと、名古屋大のMD PhDコースの両方に在籍し優秀な成績で修了した学生に対して、基礎医学領域、統合医薬学領域いずれかの**特任助教**ポストを確保する。（研究科予算にて当該ポストを確保、最大1学年1名）

○これまでに、各大学の病理学、法医学講座や、愛知県がんセンター研究所、愛知県心身障害者コロニー研究所などに研究員、教員として就職した実績がある。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

○名古屋大学大学院医学系研究科長が全体の事業責任者となり、ガバナンスを確保する。
○各大学の病理学、法医学講座の長を中心として事業推進委員会を組織する。
○事業推進委員会が、履修計画の策定・実施・評価、コースの運営などを統括管理する。
○事業推進委員会が、研究マインド育成のためのリトリート、カンファレンス、研究会を指定する。
○事業推進委員会が、履修の修了認定を行う。
○各大学の講義・実習担当教員を中心として担当教員連携会議を組織する。
○担当教員連絡会議では講義・実習の内容や指導方法について意見交換を行う。
○事務局を設立し、コースの運営、大学間連携の調整を行い、履修の円滑化を図る。
○専用ホームページを構築し、運営の円滑化を図る。

②事業の評価体制

○事業推進委員会を年2回定期的に開催し、事業内容や連携体制を評価する。各大学における事業計画の実施状況や、人材育成数などの達成状況について相互評価を行う。
○これら自己評価と相互検証により、補助金に見合う成果が得られない参画大学に対しては、次年度以降の計画変更を含めた対応を行う。
○学外有識者による外部評価を年1回実施し、報告書をホームページに公開する。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

<参画大学・研究機関が特色とする専門分野>

名古屋大学の病理学分野 環境病理学（アスベスト）、造血器病理学

疾患モデルマウス解析、癌幹細胞

名古屋大学の法医学分野 法医中毒学（メタボロミクスを用いた毒性機序の解析）

（超高感度質量分析計を用いた薬毒物分析）

法医遺伝学（DNA多型の人類的アプローチ）

愛知県がんセンター遺伝子病理診断部 クリニカルシーケンス

名古屋市立大学の病理学分野 毒性病理学、造血器病理学

名古屋市立大学の法医学分野 法医病理学（乳幼児突然死の法医病理学）

岐阜大学の病理学分野 遺伝子工学、幹細胞研究、悪性腫瘍発生メカニズム

岐阜大学の法医学分野 法医病理学（疾病の法医病理学）

法医遺伝学（ミトコンドリアDNAの法医遺伝学）

三重大学の病理学分野 再生病理学・マトリックス医学

三重大学医学部附属病院 オートプシー・イメージング(Ai)

浜松医科大学の病理学分野 トランスレーショナルリサーチ

愛知医科大学の病理学分野 神経病理学

愛知医科大学の法医学分野 法医中毒学（Q-TOFを用いた薬毒物分析）

<本事業において学生へ参加を推奨するリトリート、カンファレンス、研究会など>

名古屋グローバルリトリート（大府） 名古屋大学主催

参加機関 名古屋大（医学系研究科、環境医学研究所）、自然科学研究機構生理学研究所、
愛知県がんセンター、国立長寿医療研究センター、愛知県心身障害者コロニー

病理学会カンファレンス（犬山） 日本病理学会研究推進委員会主催

法医病理研究会 法医病理研究会主催

法医中毒研究会 法医中毒研究会主催

<連携のメリット>

○交流により研究・教育を活性化する。

○個々の学生が目指す進路をサポートする多彩で魅力的なコースを提供する。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

毎年度の評価検証により、調整を行い継続性のあるより良いプログラムの形成をおこなう。本事業に伴って開始された各大学の講義・実習、特長あるコースは各大学の財源によって継続をめざす。先行事業において研究マインド育成への貢献が大きいと評価されたリトリート・カンファレンス・研究会については、本事業後も積極的に学生を参加させ、研究マインドの涵養に役立てる。これらの事業の継続は東海地域での法医・病理医の人材育成の恒久的ボトムアップに大きく貢献すると期待される。

②事業成果の普及に関する計画

本事業によって養成されたヒトの病態を俯瞰できる基礎研究医および研究マインドを持った病理学・法医学研究医が東海地域にとどまらず全国で活躍することにより、本事業の成果を広く普及させることができる。本事業で開始した合同研究発表会は、より広域の大学・研究機関からの参加者を募り研究・教育活動の活性化に役立てる。本事業で開始された講義・実習のうち評価が高かったものについては、参加者を全国から募り、各大学の特色とする。研究マインド育成への貢献が大きかったリトリート、カンファレンスや研究会については、病理学会および法医学会と連携し、全国への普及、活性化を図る。このための財源の確保は各大学の努力のほか、病理関連・法医学関連学会や企業の支援も求める。

3. 年度別の計画

(1) 年度別の計画

29年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 8月 各大学にて大学院教育コースの設立準備を開始する ② 8月 研究マインド育成のためのリトリート、カンファレンス、研究会を指定する ③ 10月 専用ホームページの開設と募集の開始 ④ 12月 ビデオ講義、eラーニングシステムを立ち上げる ⑤ 事業推進委員会の開催（年2回 8月、1月） ⑥ 担当教員連絡会議の開催（年2回 8月、2月） ⑦ 最新の情報収集のため国内外の各種学会への参加 ⑧ 次年度カリキュラムの確定と受講者の調整（2月から3月）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 各大学にて大学院コースの実施 ② 4月 専用ホームページの更新 ③ 外部評価の実施（6月） ④ 事業推進委員会の開催（年2回 7月、2月） ⑤ 担当教員連絡会議の開催（年2回 8月 2月） ⑥ 合同研究発表会の開催（年1回 2月、発表者不在時は合同セミナーを開催） ⑦ 最新の情報収集のため国内外の各種学会への参加 ⑧ 次年度カリキュラムの確定と受講者の調整（2月から3月）
31年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 各大学にて大学院コースの実施 ② 4月 専用ホームページの更新 ③ 外部評価の実施（6月） ④ 事業推進委員会の開催（年2回 7月、2月） ⑤ 担当教員連絡会議の開催（年2回 8月 2月） ⑥ 合同研究発表会の開催（年1回 2月、発表者不在時は合同セミナーを開催） ⑦ 最新の情報収集のため国内外の各種学会への参加 ⑧ 次年度カリキュラムの確定と受講者の調整（2月から3月）
32年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 各大学にて大学院コースの実施 ② 4月 専用ホームページの更新 ③ 外部評価の実施（6月） ④ 事業推進委員会の開催（年2回 7月、2月） ⑤ 担当教員連絡会議の開催（年2回 8月 2月） ⑥ 合同研究発表会の開催（年1回 2月、発表者不在時は合同セミナーを開催） ⑦ 最新の情報収集のため国内外の各種学会への参加 ⑧ 次年度カリキュラムの確定と受講者の調整（2月から3月）
33年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 各大学にて大学院コースの実施 ② 4月 専用ホームページの更新 ③ 外部評価の実施（6月） ④ 事業推進委員会の開催（年2回 7月、2月） ⑤ 担当教員連絡会議の開催（年2回 8月 2月） ⑥ 合同研究発表会の開催（年1回 2月、発表者不在時は合同セミナーを開催） ⑦ 最新の情報収集のため国内外の各種学会への参加
34年度 [財政支援 終了後]	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 各大学にて大学院コースの実施 ② 合同研究発表会の開催（年1回 2月） ③ 事後評価の実施（10月）

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科、名古屋市立大学大学院医学研究科、岐阜大学大学院医学系研究科、三重大学大学院医学系研究科、浜松医科大学大学院医学系研究科、愛知医科大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	東海地区合同病理学・法医学研究医養成プログラム
対象者	上記研究科の大学院生（医師免許を持つ者）
修業年限（期間）	4年以内（2年次以降の学生も履修可）
養成すべき人材像	優れた研究マインドを持ち、人体の機能や病因・病態の統合的理解に基づいた基礎研究を推進できる人材。
修了要件・履修方法	<p><修了要件></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学した各大学院の必要単位を履修 2. ①選択科目1と②選択科目2を履修し合計20ポイント以上を獲得（ただし入学した大学院以外から5ポイント以上獲得すること） 3. ③プログラムが指定するリトリート、カンファレンス、研究会と、④合同研究発表会に参加・発表し、合計10ポイント以上を獲得 4. 合同研究発表会にて4年次に研究内容を発表 <p><修了時評価></p> <p>獲得したポイントと合同研究発表会での発表内容を評価し修了証を発行する</p>
履修科目等	<p><①コア能力獲得（選択科目1、D1-D2）></p> <p>（1コース10ポイント、2コース以降5ポイント）</p> <p>病理診断トレーニングコース（各大学、通年）、法医鑑定トレーニングコース（各大学、通年）、人体解剖トレーニングコース（名古屋、夏季）、オートプシー・イメージング(Ai)コース（三重、通年）</p> <p><②専門能力学習（選択科目2、D2-D3）></p> <p>（集中講義3ポイント、実習3ポイント、セミナー1ポイント）</p> <p>各大学が提供する専門性の高いコース（大学間連携の体制、ポンチ絵を参照）</p> <p><③研究マインド育成（D1-D4）></p> <p>（参加2ポイント、参加+発表4ポイント）</p> <p>プログラムが指定するリトリート、カンファレンス、研究会に参加・発表し、情報交換や交流を行い、研究マインドを涵養（名古屋グローバルリトリート（大府）、病理学会カンファレンス（犬山）、法医中毒研究会、法医病理研究会など）</p> <p><④合同研究発表会（D1-D4）></p> <p>（参加2ポイント、参加+発表4ポイント）</p> <p>他の大学院生と運営推進委員の前で、D4学生が博士論文の研究成果を発表</p>
教育内容の特色等（新規性・獨創性）	<p><新規性・獨創性等></p> <p>①連携による研究・教育の活性化：東海地区全体で連携して指導を行うことで、学生・教員の交流を加速し、地区全体の研究・教育を活性化する。研究交流・協力を促進することで、共同研究に繋げる。</p> <p>②多彩で魅力的なコース：連携大学全体で協力し、個々の学生が目指す進路をサポートする多彩で魅力的なコースを提供する。各連携大学で行われる講義・実習・セミナーを利用して、高度専門的な病理診断・法医鑑定能力や、専門分野を深化させる研究能力を理解する。講義・セミナーは録画を行いeラーニングコンテンツとして整備し、学生の学習に役立てる。</p> <p>③研究マインドの涵養：参加者は、プログラムが主催する合同研究発表会や、プログラムが指定するカンファレンス、勉強会、リトリートに参加・発表し、他大学や他分野の研究者と交流を行い、優れた研究マインドや、集学的な基礎研究を行う素養を身につける。</p> <p><臨床医学分野と連携した教育について></p> <p>④臨床志向の病理学・法医学医：オートプシー・イメージング(Ai)トレーニングコースやクリニカルシーケンスコースなど臨床志向の大学院生にも魅力的なコースを構築する。</p> <p>⑤形態学を学びたい臨床研究医：人体解剖トレーニングセミナーや疾患モデル動物解析コースなど臨床研究にも役立つ魅力的なコースを構築する。</p>

大学間連携の体制	<p><参画大学・研究機関が特色とする専門分野></p> <p>名古屋大学の病理学分野 環境病理学（アスベスト） 疾患モデルマウス解析、癌幹細胞、造血器病理学</p> <p>名古屋大学の法医学分野 法医中毒学（メタボロミクスによる毒性機序解析） （超高感度質量分析計による薬毒物分析） 法医遺伝学（DNA多型の人類学的アプローチ）</p> <p>愛知県がんセンター遺伝子病理診断部 クリニカルシーケンス</p> <p>名古屋市立大学の病理学分野 毒性病理学、造血器病理学</p> <p>名古屋市立大学の法医学分野 法医病理学（乳幼児突然死の法医病理学）</p> <p>岐阜大学の病理学分野 遺伝子工学、幹細胞研究、悪性腫瘍発生メカニズム</p> <p>岐阜大学の法医学分野 法医病理学（疾病の法医病理学） 法医遺伝学（ミトコンドリアDNAの法医遺伝学）</p> <p>三重大学の病理学分野 再生病理学・マトリックス医学</p> <p>三重大学医学部附属病院 オートプシー・イメージング(Ai)</p> <p>浜松医科大学の病理学分野 トランスレーショナルリサーチ</p> <p>愛知医科大学の病理学分野 神経病理学</p> <p>愛知医科大学の法医学分野 法医中毒学（Q-TOFによる薬毒物分析）</p>																																																								
指導体制	各大学の病理学、法医学の教員が中心となって連携し指導にあたる。																																																								
キャリアパスの構築	<p><キャリアパスの構築について></p> <p>○（名古屋大）MD PhDコースに所属し優秀な成績で修了した学生に対して、基礎医学領域、統合医薬学領域いずれかの特任助教ポストを確保する。 （研究科予算にて当該ポストを確保、最大1学年1名）</p> <p>○各大学の病理学、法医学講座や、愛知県がんセンター研究所、愛知県心身障害者コロニー研究所などに研究員、教員として就職した実績あり。</p> <p><プログラム受講者に対するキャリアパスの明示方法について></p> <p>○本コースの学生募集の際に、募集要項に明示する。</p>																																																								
受入開始時期	平成30年4月																																																								
受入目標人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>H32年度</th> <th>H33年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名古屋大</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>名古屋市立大</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>岐阜大</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>三重大</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>浜松医科大</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>愛知医科大</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計	名古屋大	0	3	3	3	3	12	名古屋市立大	0	1	1	1	1	4	岐阜大	0	1	1	1	1	4	三重大	0	1	1	1	1	4	浜松医科大	0	1	1	1	1	4	愛知医科大	0	1	1	1	1	4	計	0	8	8	8	8	32
対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計																																																			
名古屋大	0	3	3	3	3	12																																																			
名古屋市立大	0	1	1	1	1	4																																																			
岐阜大	0	1	1	1	1	4																																																			
三重大	0	1	1	1	1	4																																																			
浜松医科大	0	1	1	1	1	4																																																			
愛知医科大	0	1	1	1	1	4																																																			
計	0	8	8	8	8	32																																																			

人体を統合的に理解できる基礎研究医の養成

個々の学生が目指す進路をサポートする多彩で魅力的なコース

学生や教員の交流による研究・教育の活性化

ヒトの病態を俯瞰できる基礎研究医
研究マインドを持った病理学・法医学研究医

俯瞰的視野の獲得
研究シーズ認識力の強化

海外留学

教員、研究者

各大学の病理学、法医学講座教員
愛知県がんセンター研究所
愛知県心身障害者コロニー研究所など

死体解剖資格取得の支援

特任助教として採用（1人/年）
（名大MD PhDコース所属者）

基幹病院の病理医

④合同研究発表会 (D1-D3：参加)
(D4：発表)

参加+発表 4p
参加 2p

D4学生が博士論文の研究成果を発表
学生、教員の交流や情報交換を行いプログラムを活性化
事業推進委員と本プログラム参加大学院生が参加

②専門能力学習 (選択科目2, D2-D3)

高度専門的な病理診断・法医鑑定技術を理解 シリーズ講義・集中講義 3p
専門分野を深化させる研究能力を理解 実習 3p
研究交流・協力を促進 共同研究に繋げる 単回のセミナー 1p

神経病理コース（愛知医大） 毒性病理コース（名市大）
環境病理コース（名古屋大） 再生病理コース（三重大）
造血管病理コース（名古屋大、名市大）
クリニカルシーケンスコース（愛知県がんセンター） 講義・セミナーは録画しeラーニングコンテンツとして整備

法医中毒コース（名古屋大、愛知医大）
法医病理コース（名市大、岐阜大） 法医遺伝コース（名古屋大、岐阜大）

遺伝子工学コース（岐阜大） 疾患モデル動物解析コース（名古屋大）
悪性腫瘍発生メカニズムコース（岐阜大） 幹細胞研究コース（岐阜大）
オミックス解析コース（名古屋大）
トランスレーショナルリサーチコース（診断キット開発：浜松医大）

参加+発表 4p, 参加 2p

①コア能力獲得 (選択科目1, D1-D2)

基礎的な病理診断・法医鑑定技術を習得

病理診断トレーニングコース（各大学、通年）
法医鑑定トレーニングコース（各大学、通年）

人体解剖トレーニングコース（名古屋大、夏季）
オートプシー・イメージング(Ai)
トレーニングコース（三重大、通年）
1コース 10p, 2コース目以降 5p

③研究マインド育成 (D1-D4)

プログラムが指定するリトリート、カンファレンス、研究会に参加・発表し、交流や情報交換を行い、研究マインドを涵養
名古屋グローバルリトリート（大府）、病理学会カンファレンス（犬山）、法医中毒研究会、法医病理研究会など

修了要件

1. 入学した各大学院の必要単位を履修
2. ①と②を履修し合計20ポイント(p)以上を獲得（ただし入学した大学院以外から5ポイント以上獲得すること）
3. ③と④に参加・発表し合計10ポイント以上を獲得
4. 合同研究発表会にて4年次に研究内容を発表

修了時の評価

獲得したポイントと、合同研究会での発表内容を評価し修了証を発行する。

コースの運営方法

1. トレーニングコースは入学時に決定。（途中変更や追加取得も可）
2. 選択科目2のシリーズ講義・集中講義と実習は、翌年度に開催するコースの内容と時期を3月に事務局が取りまとめる。同時に新D2, 新D3から受講したいコースを聴取し、事務局で調整する。
3. セミナーは、開催が決まった際に事務局からプログラム参加者へアナウンス。

名古屋大学
名古屋市立大学
岐阜大学
三重大学
浜松医科大学
愛知医科大学

病理学大学院生

法医学大学院生

疾患研究志向の
基礎医学大学院生

人体形態学志向の
臨床医学大学院生

